

令和4年8月16日
東京都医師会 記者会見

COVID-19 第7波における高齢者施設の現状について

東京都医師会（自宅療養・高齢者施設担当）

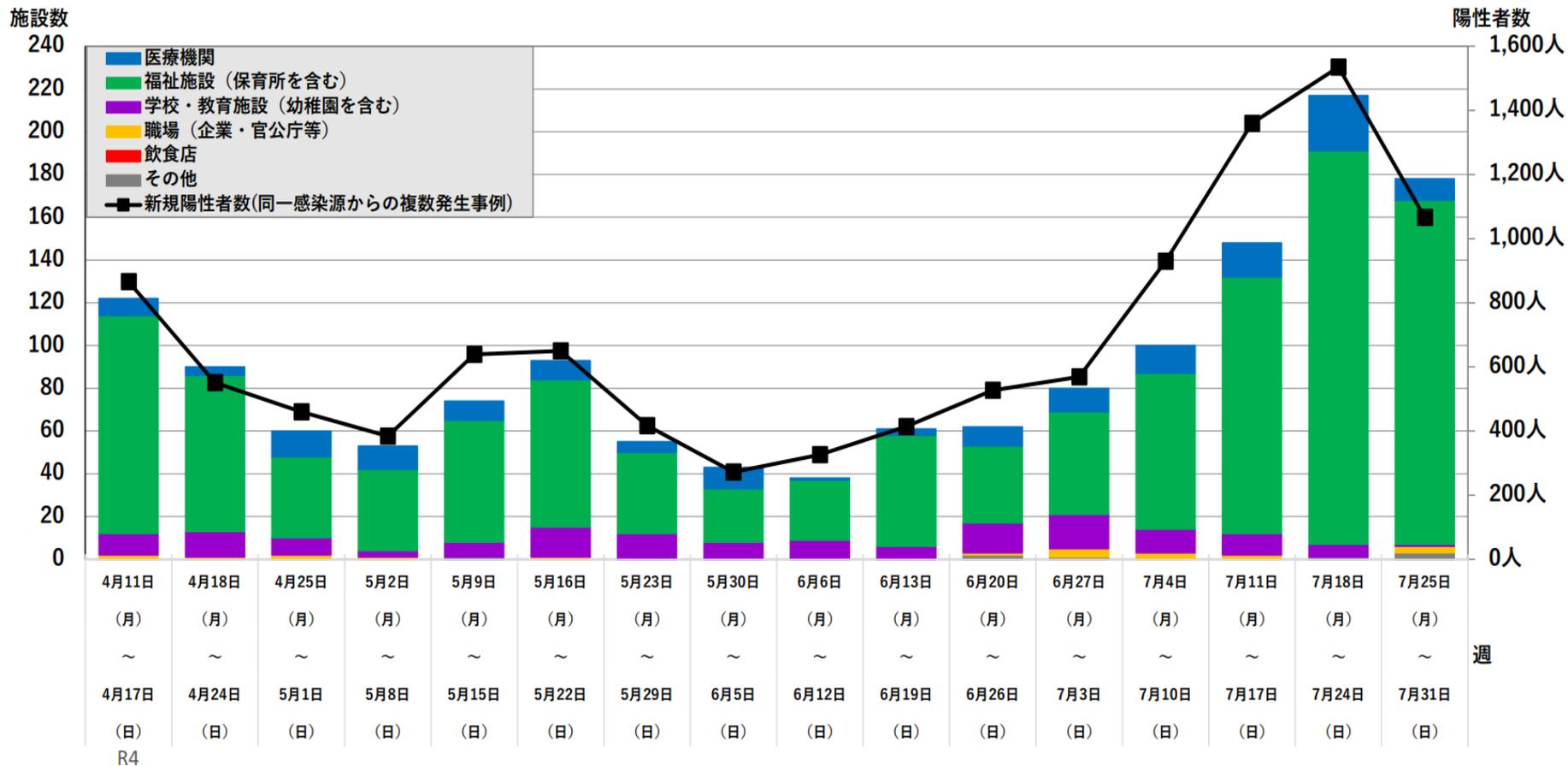
副会長 平川 博之

理事 西田 伸一

理事 土谷 明男

感染状況の推移

新規陽性者数（同一感染源からの複数発生事例）



(注1) 都内保健所より受けた報告実績（報告日ベース）により算出。医療機関、福祉施設、学校・教育施設、飲食店及び職場（企業・官公庁等）において、新型コロナウイルス感染症で、同一感染源から2名以上の陽性者が発生した事例を集計。

(注2) 速報値として公表するものであり、後日確定データとして修正される場合がある。

『高齢者施設陽性者数の推移』

6/1～8/10				
		陽性者数		
施設種別	入所者	職員	合計	
老健	178	442	293	735
特養	526	915	891	1806
介護医療院	11	57	31	88
軽費	38	36	21	57
都市型軽費	1	1	0	1
養護	27	27	15	42

7/1～8/10				
		陽性者数		
施設種別	入所者	職員	合計	
老健	157	401	277	678
特養	476	476	830	1306
介護医療院	11	57	31	88
軽費	32	31	19	50
都市型軽費	1	1	0	1
養護	25	25	15	40

⇒令和4年7月以降に急激な感染拡大が起きている

『高齢者施設職員集中的検査(PCR検査)の陽性疑い率』

第6波：全集中的検査陽性疑い最大週2月13日～2月19日

陽性疑い率 0.76% (525人/68382人)

老健施設 0.79% (118人/149771人)

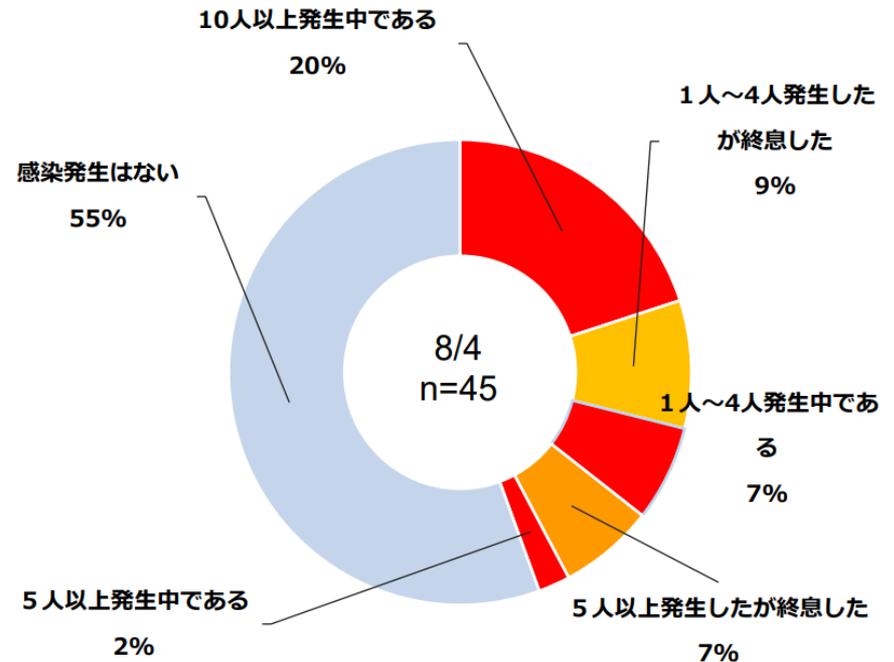
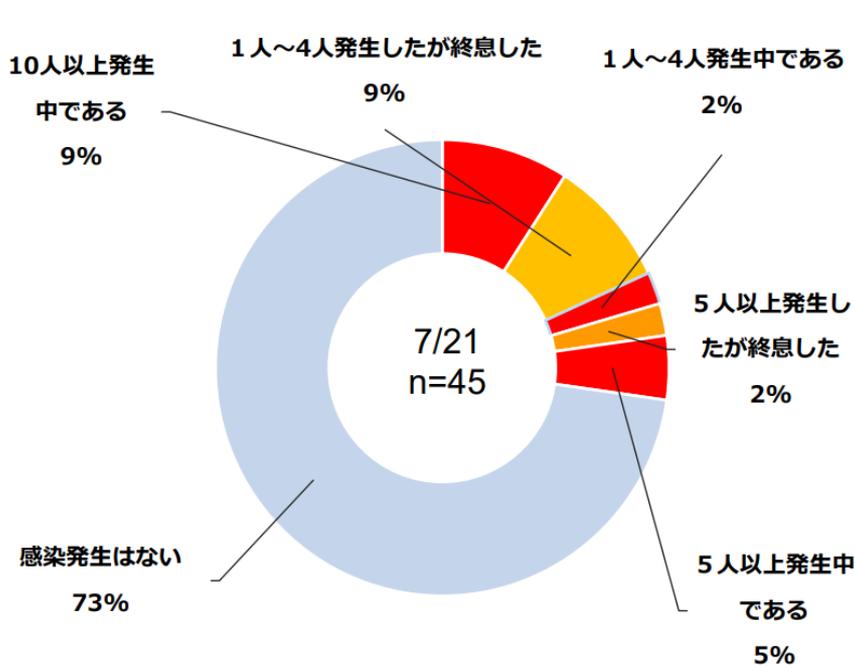
第7波：全集中的検査陽性疑い最大週7月17日～7月23日

陽性疑い率 1.25% (1045人/83263人)

老健施設 1.17% (185人/15805人)

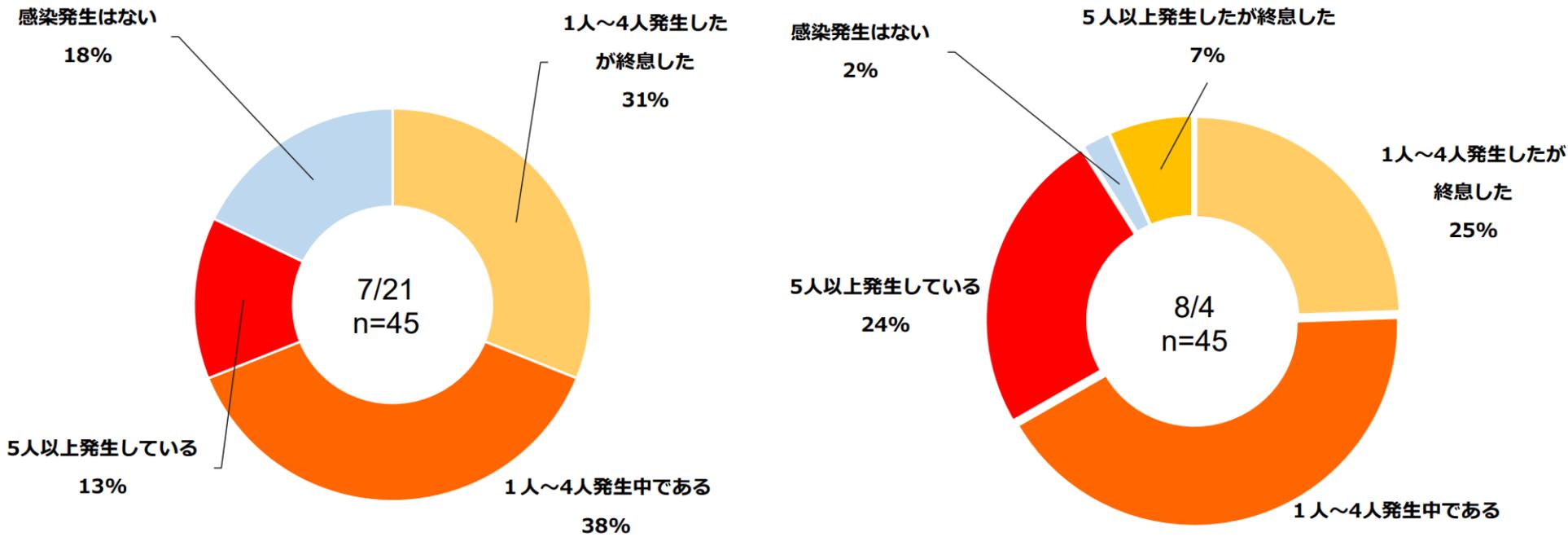
⇒第6波と比較し陽性疑い率が全施設で1.64倍、老健で1.48倍にまで増加

老健施設「入所者」感染発症状況 7月21日と8月4日を比較



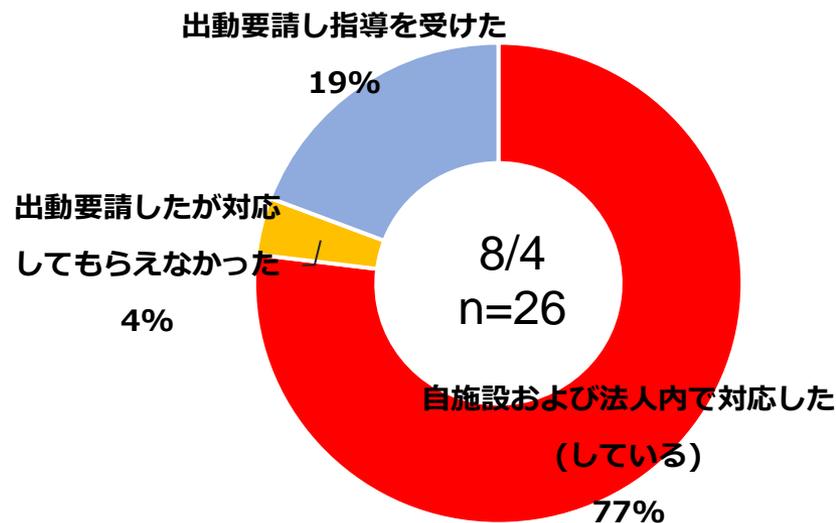
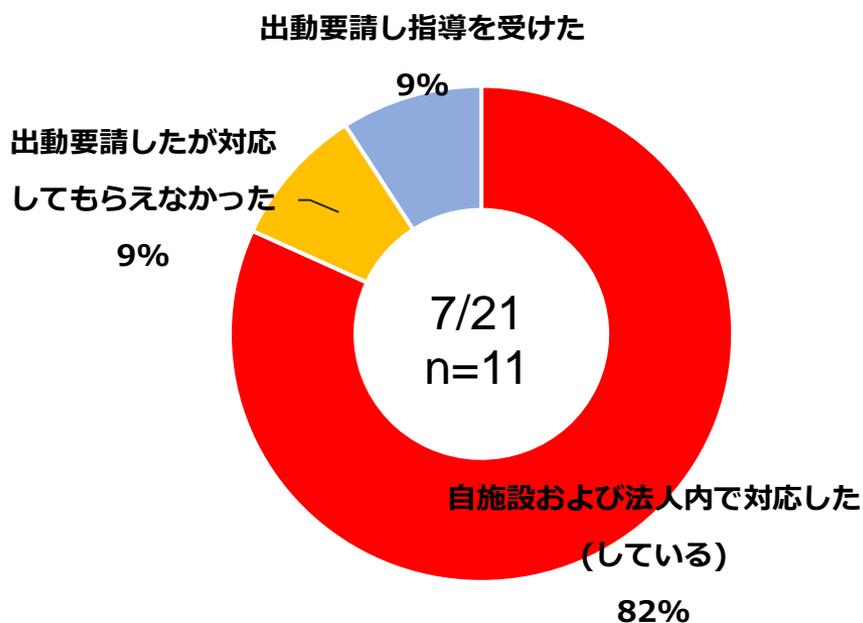
⇒2週間で急激に感染者が増えている

老健施設「職員」感染発症状況 7月21日と8月4日を比較



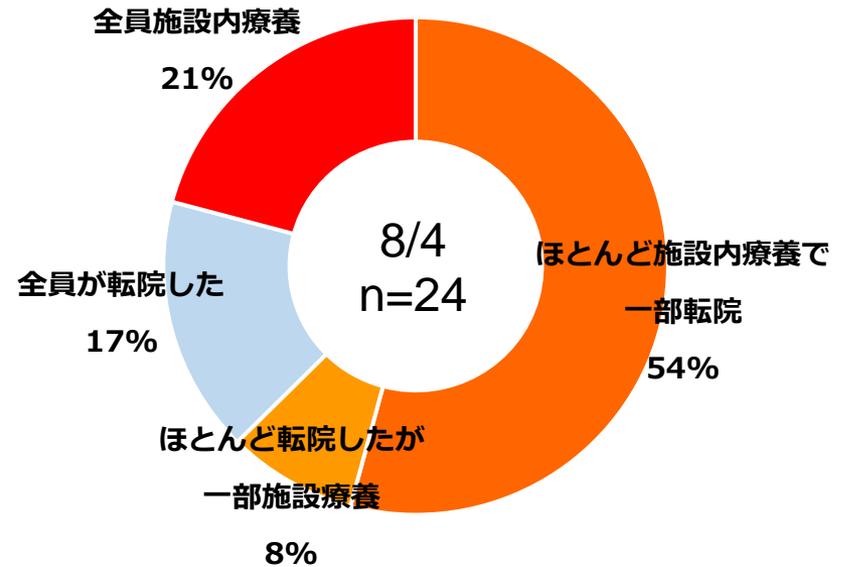
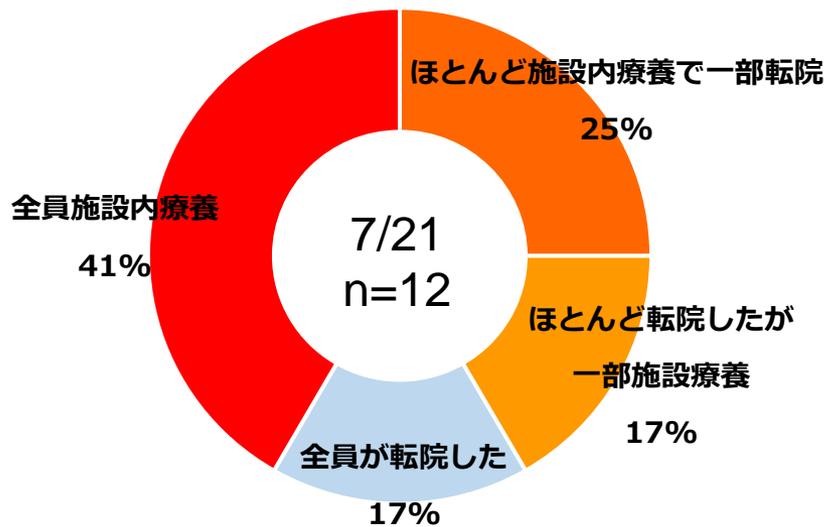
⇒2週間で急激に感染者が増え、ほとんどの施設に陽性職員がいる。
しかも「5人以上感染」が4分の1。

クラスター対策班の要請状況



⇒支援を受けた施設が2割、自施設で対応が8割弱。
クラスター班の対応も改善傾向。

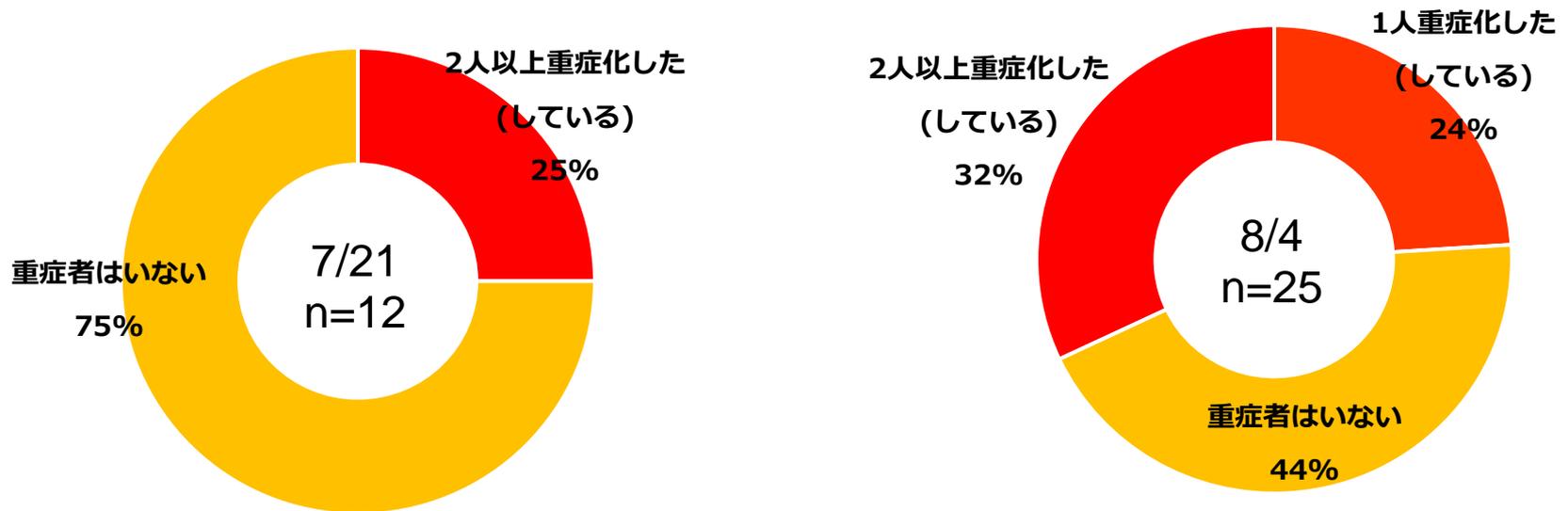
感染した入所者の処遇状況



⇒3分の2の施設が施設内療養で対応。

重症化した感染者の有無

※重症の目安：呼吸不全あり(酸素投入)または、施設での治療が困難な場合



⇒当初は軽度者主体であったが、ここへきて重度者が増加の傾向

第7波における高齢者施設の現状

- 短期間で利用者・職員の感染者が増加。殆どの施設に陽性職員がいる。しかも「5人以上感染」が4分の1。第7波では利用者の感染対応のみならず、感染・濃厚接触職員対策が重要課題である。
- 濃厚接触者の待機期間が短縮されたが、現場では早期復帰に不安感がある。安全性への明確なエビデンス、メッセージが欲しい。
- クラスター班の支援を受けた施設が2割、自施設で対応が8割弱と施設の感染症対応能力が向上。クラスター班の対応も改善傾向。
- 高齢者施設団体からの報告では、多くの施設が「往診体制強化事業」「医療チーム派遣事業」等を活用し施設内療養に取り組んでいる。但し、支援と結びついていない施設サービスもある。
- 第7波当初と異なり、重症者増加兆候 ⇒ 高リスク者の確実な入院対応。
- 施設内の感染拡大を防ぐため、全利用者・職員に対して複数回実施可能な数の抗原検査キットの備蓄が必要である。
- ポストコロナの要介護高齢者を受け入れる仕組みを作っているが、殆ど問い合わせがない（老人保健施設）、積極的に活用して欲しい。

通常医療に大きな影響を与える高齢者への感染を防ぐため、

各人一層の感染対策（3密防止、ワクチン接種等）をお願いいたします。